

山中湖村平野交差点バス待合所・観光案内所 人・風景・時間をつなぐ、Micro Public Network

Hirano Bus Terminal and Tourism Center in Yamanakako Village
Micro-Public-Network for Regenerating Community

○菅原 大輔* 上赤坂典幸**

Daisuke SUGAWARA Noriyuki UEAKASAKA

Yamanakako village in Yamanashi Prefecture aims to revitalize tourism and community development through the concept of an eco-museum. The bus terminal, located at the intersection of the lakeside circuit road and the main road, serves as the village's sole public transportation and plays a crucial role in its redevelopment efforts. The project create a harmonious blend of history and future vision with architectural space, Plaza and Road design including strategic analysis and design for local context.

Keywords : Comunity, Bus Terminal, Tourism Center, Regional Hub
キーワード : コミュニティー、バス待合所、観光案内所、地域拠点

■基本情報

名称：全体「ゆいの広場ひらり」

：建物「山中湖村平野交差点バス待合所・観光案内所」

敷地面積：10905 m²

建築面積：126.27 m² / 延床面積：175.83 m²

階数：地上1階/木造

所在地〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 69

設計者

基本設計：イー・エー・ユー（全体統括・広場）、文化財保存計画協会（古民家再生）、アルメックVPI（道路）、SUGAWARADAI SUKE（ロータリー工区の広場・建築）

デザイン監理：イー・エー・ユー

実施設計：馬場設計（ロータリー工区以外の建物と広場）、SUGAWARADAI SUKE

学術分析：東京大学の景観研究室

01. 計画の背景

富士山の足元に位置する山梨県山中湖村は、エコミュージアム構想（※1）を掲げ、観光産業の活性化と一体化したまちづくりを進めている。様々な専門家と大学の研究者が集まり、学術的研究と住民ワークショップによって、村の歴史と観光資

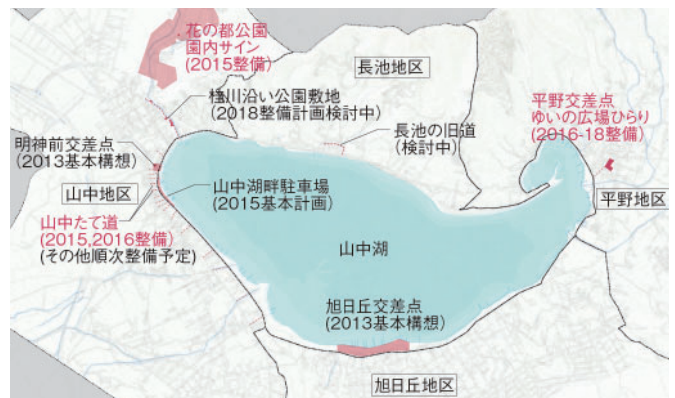


図1 湖畔沿いの計画（製作 eau）



写真1 平野交差点の俯瞰

* 東京電機大学未来科学部建築学科 准教授 博士（建築学）

** 9 株式会社

* Department of Architecture, School of Science and Technology for Future Life Faculty, Tokyo Denki University, Associate Prof., Dr. Archi.

** 9 Co., Ltd.



写真2 バスロータリー工区全景

源の調査・分析と、まちの骨格づくりが行われている。その中心となるのが、湖畔周遊道路と村外からの主要道路との交差点に設けられた、村内唯一の公共交通であるバスの待合所である(写真1、図2)。

02. 計画の目的

本計画は、2つ目に大きい集落の平野に位置する平野交差点の再開発である。平野交差点では、村内外をつなぐ観光と交通の拠点に合わせて、地域の生活を支える人と物が集い・佇む地域の交流拠点機能が求められた。つまり、バス待合所を含めた地域施設の目的は、地域特性を継承しつつも利便性を更新しつつ、村の持続的な地域活動の中心となる場所の整備である。そこで、これを実現するために、4つの戦略を基に本計画を行った。a) 集落構造の分析による地域施設の最適な立地の決定、b) 地域の交通拠点を兼ねた地域施設による交流と活動の活性化の実現、c) 産学官連携による民間の主體的で持続的な運営プログラム、d) 周辺環境(コンテキスト)分析による地域特性を反映した空間構成の意義

03. 全体計画の概要

まずは、山中湖村の4集落の構造分析(※2)を行う中でも、農業が産業の中心で相互の助け合いが盛んだった平野地区の中心を「結いの広場」と位置づけ、本交差点周辺を計画地として定めた(※3)。交差点に立地する古民家「平野家」は歴史的に見て平野地区の中心であり、村で古くから続く「御神木祭」が行われていた場所でもある。しかし、交差点周辺



写真3 西側のファサードを見る



図2 全体計画(製作 eau)



写真4 バス待合所・観光案内所の内部



写真5 バスロータリーから見る



写真6 交差点から見る



写真7 多目的ひろばを見る

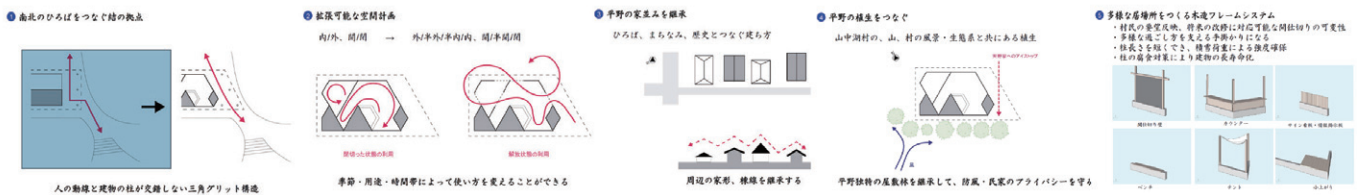


図3 地域特性による5つの空間構成ダイアグラム

は畑や住宅地として開発されると祭りは郊外の駐車場で行われるようになり、平野家周辺は中心性を失っていた。そこで、渋滞が著しい交差点改良に合わせて、バスロータリーと待合所・観光案内所、平野家の古民家改修によるNPO活動拠点、お祭りの広場を再整備することで、村内外の人々が様々な目的で滞在し、活動する交通拠点を兼ねた交流施設整備を行った。敷地全体は3工区に分かれ、土地は複数の地主から村が一括で借り上げるが、北側の平野家とお祭り広場である中段のひろばは村が、バスロータリーと待合所・観光案内所は民間企業である富士急行がその整備費を担っている。バス待



写真8 木造三角グリッドの模型



写真9 待合情報広場より、ケヤキ広場を見る

合所・観光案内所の運営は、山中湖観光協会と平野旅館民宿組合が行うことで、収益性も見越した産学官連携による持続的な運営プログラムを設定した(図2)。

03. 建築計画の構成とその特徴

3工区の中段に位置するバス待合所・観光案内所とバスロータリー(ロータリー工区)では、地域の風景と物語を読み解き再編集することで、歴史と未来が連続する新しい風景の構築を目指した。その中核となっているのが基礎・柱・横架材による三角木軸グリッドであり、その3方向の軸線は、周辺環境(コンテキスト)分析によって導かれている(写真9, 10)。

1つ目の軸線は、南北広場とバス待合所を結ぶ歩行者の動線(写真11)、次の軸線は、施設からの富士山への眺望と平野家のシンボルツリーであるケヤキへの眺望を結んだ軸線、最後は、湖に向かうかつての主要導線に対して妻面を向ける建築物の構造である母屋の構造軸である。この三角形によって周辺環境の特徴を体験として提供し、かつ、周辺のどの方向からも内部の活動や空間サインが確認でき、240度が正面のような佇まいを持つ空間構成を行った。また、木軸グリッドが中小規模の空間改変の拠り所になることで、カウンターや間仕切り壁、ベンチや小上がりなどが必要に応じて編集可能となり、設計時に想定される様々な使用用途を支えると同時に、竣工後の簡易な改変も可能となる、「地域住民が自ら編集できる公共空間」の試みにも寄与している。また、基礎と柱と横架材、屋根と屋内外の境界範囲がズレながら重層することで、屋外/ 底下/ 屋外的屋内/ 屋内的屋内を構成し、



写真10 森のように林立する木造三角グリッド



写真 11 南北をつなぐ庇通路

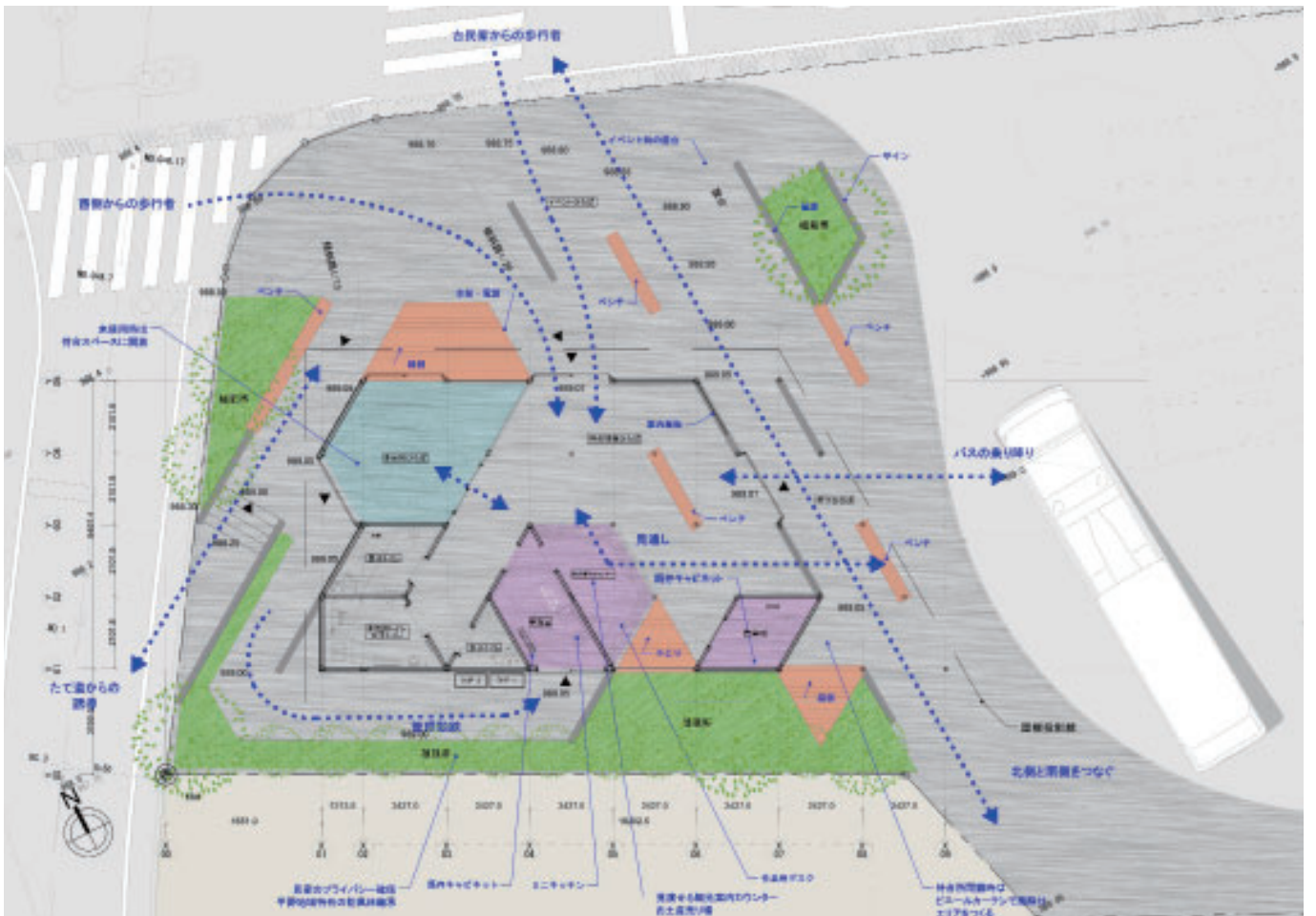


図 4 平面図



写真 12-13 中段のひろばでの「御神木祭」の様子



写真 14 中段のひろばより見る

季節や況に応じた様々な活動を大らかに受け止めている。さらに、外気と空調のグラデーショナルな温熱環境を築くことで、観光客の多い夏の繁忙期と冬の閑散期の利用者数の増減に対して、活動範囲大きく伸び縮みさせる建物と広場の関係を構成している(図3)。

04. 結論

4つの戦略を基に、地域特性を継承しつつ持続的な地域活動の活性化を目指した本計画によって、地域活性化を実現する地域施設を実現できたと考えられる。

a) 集落構造分析による地域特性を継承する立地の決定、b) 交通と交流拠点を併設することによる様々な出会いと活動の実現、c) 様々な事業者や運営者の主体的で持続的な関与を可能にする運営プログラム、d) コンテキストを取捨選択し、現代的な用途に適合させた空間体験の構築

05. まとめと今後との展望

中山間地域の人口は全国的に見ても衰退傾向であるが、徳島県の神山町などの例が示すように、情報やモビリティなどのイノベーションの恩恵を最大限に受けつつ地域特性を継承して活性化する可能性を持っている。山中湖村は、様々なモビリティで複数の小規模拠点を連携させることで広域的な活性化を目指している。筆者はこれを Micro Public Network (※4) と名付け、他の市町村でも展開している。大規模開発ではなく、小規模拠点の開発とその連携によって住民や民営組織が地域の構造とその歴史を理解し、自分たちのための公共空間をつくることは意義深い。また、本計画のような地域内の生活と観光の双方を支える拠点は、整備費用を一拠点分に抑えるだけでなく、日常的に使われ続ける生活の場であると同時に、地域を体験する観光も実現する。本計画を含め、機能のハイブリッドと小規模拠点の連携による Micro Public Network の方法論を確立し、地域活性の実現とこれによる日本の未来のランドデザインに寄与したいと考えている。

参考文献

- 1) 山中湖村企画まちづくり課《山中湖村エコミュージアム基本計画宝ボの書》、平成28年3月
- 2) 福島秀哉《山中湖村における集落空間の近代の変容と村落共同体の領域形成に関する研究： 共同体的特徴を考慮した生活空間の計画論構築に向けて》学位論文、東京大学、2017年03月09日
- 3) 村未来政策課 まちづくり推進係《山中湖村デザインノート、平野地区デザインノート》
https://www.vill.yamanakako.lg.jp/div/machi_dukuri/pdf/Senryaku/hirano_design_note.pdf (2023年3月6日閲覧)
- 4) 菅原大輔 新建築 2018年9月号, p201



写真 15 入れ子状でしっかり空調される多目的ひろば

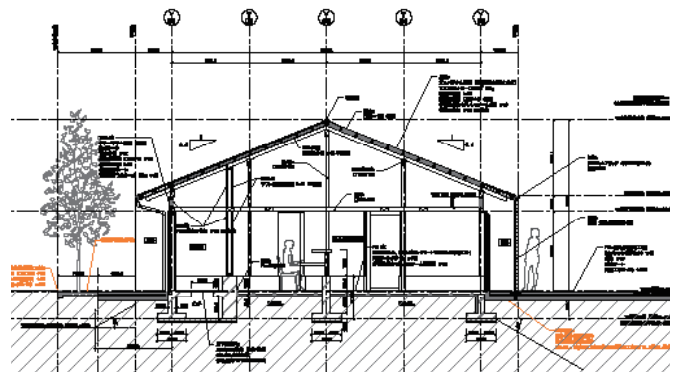


図5 断面構成

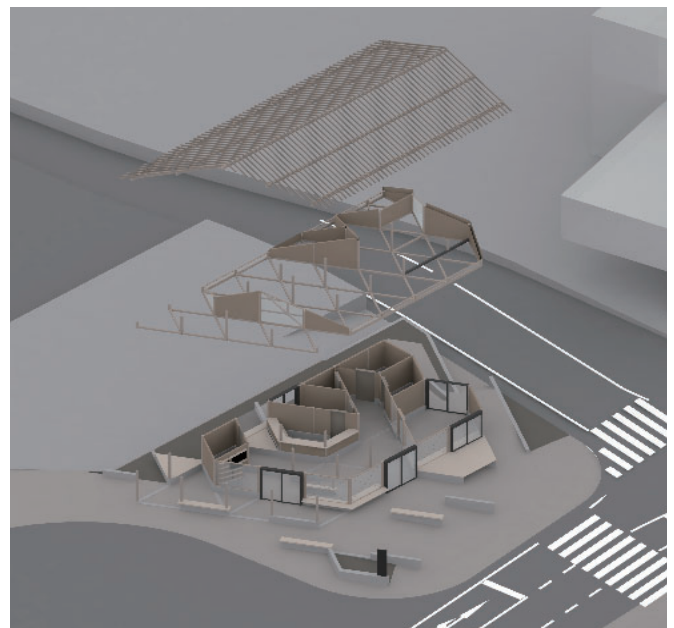


図6 アクソメ図